

世界農業遺産保全計画

取組一覧

資料 2

和歌山県みなべ・田辺地域

取組	ページ	実施者	実施時期					指標	
			R7	R8	R9	R10	R11	現状	目標
1 食料及び生計の保障									
(1) 労働力の確保									
ア 担い手・労働力を確保するためのシステムを構築する。	9	◎県、市町、JA	○	○	○	○	○	新規就農者数(R2～5) 20人/年	(R7～10) 20人/年
イ 技術情報の周知や研修・勉強会を通じて、生産者の技術向上と担い手確保を支援する。	9	◎県、JA、生産者市町	○	○	○	○	○		
(2) 梅樹の生産性維持									
ア 高い生産性を維持する。	9	◎生産者、JA、県市町	○	○	○	○	○	参考 改植事業(年間実績) (R3) 29.6ha 土壌改良事業(年間実績) (R3) 104.4ha	
イ 効率化により収益性向上、作業負担を軽減する。	9	◎県、JA、生産者市町	○	○	○	○	○	梅栽培面積(年間実績) (R4) 3,969ha	(R9) 4,000ha
(3) 気象条件や気候変動による主要品種「南高」の生産不安定化、新たな病虫害への対策									
ア 暖冬に強い「南高」の育成と普及	10	◎県、JA市町	○	○	○	○	○		
イ 新品種の育成と栽培推進	10	◎県、JA市町	○	○	○	○	○	新品種普及面積(年間実績) (R4) 217ha	(R9) 250ha
ウ 生産安定を目指した栽培方法の確立と普及推進	10	◎県、JA市町	○	○	○	○	○	摘心栽培面積(年間実績) (R4) 19ha	(R9) 30ha
エ 新規病虫害の発生への対応	11	◎県、JA市町	○	○	○	○	○		

(4) 消費の拡大											
ア 加工・利用方法の周知による購買意欲の向上	11	◎JA、地域、市町 県	○	○	○	○	○	梅加工講習会等(年間実績) (R5) 83回	(R10) 100回		
イ 梅干以外の加工品の開発、新たな注意喚起	11	◎JA、県、企業 市町	○	○	○	○	○	新規梅加工商品数(累計) (R4) 8商品	(R9) 10商品		
ウ 高付加価値化	11	◎県、JA、市町	○	○	○	○	○	新品種(露茜)出荷量(年間実績) (R5) 27.6t	(R10) 30t		
エ 梅の健康機能性PR	12	◎市町、推進協議会 県、企業	○	○	○	○	○	機能性PRイベント実施回数(年間実績) (R4) 6回	(R9) 10回		
オ 世界農業遺産及び梅システムの認知度向上	12	◎推進協議会 市町、県、地域、企業	○	○	○	○	○	ロゴマーク活用企業数(累計) (R5) 119社	(R10) 累計 150社		
(5) 製炭者の高齢化や後継者不足、生産量の減少及び収益性の向上										 	
ア 炭焼き体験の受入と新たな後継者の発掘と育成	13	◎森林組合、地域 市町、県	○	○	○	○	○	製炭業への新規就業者数(累計) (H27～R4) 17人	(H27～R9) 20人		
イ 炭窯修繕等への補助金活用や適寸原木の確保により、高品質な紀州備長炭の生産	13	◎森林組合、地域 市町、県	○	○	○	○	○	製炭窯数(年間実績) (R3) 76基	(R8) 80基		
ウ 紀州備長炭の認知度向上、多様な用途の炭製品を開発し利用促進	13	◎森林組合、地域 市町、県	○	○	○	○	○	炭生産量(年間実績) (R4) 273t	(R9) 300t		
(6) 未利用資源の利活用										     	
ア 調味残液や剪定枝など未利用資源の活用による環境負荷の低減	14	◎地域、森林組合 市町、県	○	○	○	○	○	未利用資源の代替エネルギーとしての活用事業者数(年間実績) (R3) 3社	(R8) 6社		
イ 地域資源としてジビエの活用	14	◎地域、市町、県	○	○	○	○	○	ジビエとしての活用頭数(年間実績) (R4) 742頭	(R9) 800頭		

2 農業生物多様性

(1) 生物多様性の重要性啓発と次世代への継承



ア 里山環境に対する意識の向上	15	◎推進協議会 地域、森林組合、観光協 会、市町、博物館	○	○	○	○	○	里山や生き物に関するイベント等の実施回数 (R2～6) 2回/年	(R7～11) 2回/年
イ 生物多様性に関する学習会の開催	16	◎推進協議会 博物館、大学	○	○	○	○	○	観察会等実施回数 (R2～6) 2回/年	(R7～11) 2回/年
ウ ミツバチの個体群保持	16	◎県、市町 JA、推進協議会、地域、大 学	○	○	○	○	○	ニホンミツバチ飼養数(年間実績) (R5) 166群	(R10) 200群
エ 海岸部との連関性の情報収集	16	◎推進協議会、市町、県	○	○	○	○	○		

(2) 持続可能な農業への取組



ア 梅栽培の環境への負荷低減	16	◎地域、農協、県	○	○	○	○	○	J-GAP実践者数(年間実績) (R4) 11人+1団体	(R9)14人 +1団体
----------------	----	----------	---	---	---	---	---	------------------------------	-----------------

(3) 鳥獣害対策



ア 鳥獣害対策で生産意欲向上	17	◎地域、市町、県	○	○	○	○	○	主要鳥獣による農作物被害額(年間実績) (R4) 31,796千円	(R9) 30,000千円
----------------	----	----------	---	---	---	---	---	--------------------------------------	------------------

3 地域の伝統的な知識システム

(1) 後継者の確保、新規参入者への支援



ア 新規参入者の相談や農地等の斡旋、人材のマッチングや技術習得の支援	18	◎JA、森林組合 市町、県	○	○	○	○	○	新規就業者数 (R2～6) 20人/年	(R7～11) 20人/年
イ 都市農村交流や移住体験ツアーの企画・実施	18	◎推進協議会 市町、県、地域	○	○	○	○	○	移住体験ツアー等参加者数(年間実績) (R5) 76人	(R10) 80人

(2) 伝統技法の習得と後継者への伝承



ア 梅生産技術の向上と後継者への継承	18	◎地域、JA 市町、推進協議会	○	○	○	○	○	講習会参加者数(年間実績) (R4) 698人	(R9) 800人
イ 製炭技術、択伐技術の実践と継承	19	◎地域、森林組合、県 市町	○	○	○	○	○	製炭者択伐技術普及率(年間実績) (R5) 89%	(R10) 100%
ウ 樹林管理のための勉強会の開催	19	◎森林組合 推進協議会	○	○	○	○	○	勉強会参加者数(累計) (H27～R6) 165人	(H27～R10) 200人

4 文化、価値観及び社会組織

(1) 地域コミュニティの強化



ア 梅システムに関する議論の場を作り、生産者や地元住民への梅システムに対する理解醸成と課題の共有	20	◎推進協議会 地域、市町	○	○	○	○	○	梅システムに対する関心度(R4) 48.1%	(R9) 70%
イ 梅システムマイスターとの共創、協働活動	21	◎推進協議会、大学 地域	○	○	○	○	○	梅システムマイスター任命者(累計)(R3) 44人	
ウ 地元住民や事業者の自主的な梅システム保全活用の取組に支援(住民提案型地域活動支援事業)	21	◎推進協議会、地域	○	○	○	○	○	補助金交付団体数(累計)(H29～R6) 38団体	(H29～R11) 60団体
エ 他の農業遺産認定地域との交流を推進	21	◎推進協議会、教育委員会	○	○	○	○	○		
オ 住民意識調査の実施	21	◎推進協議会			○			梅システムに関する認知度(R4) 28.8%	(R9) 60%

(2) 地域の少子高齢化に応じた梅文化や食文化、祭等の伝承



ア 地域産業としての梅文化の理解醸成	21	◎JA、梅干協同組合 市町	○	○	○	○	○	出前授業実施回数(R2～6) 18回	(R7～11) 20回/年
イ 食文化等農耕に関連した文化・祭の継承	22	◎地域、地域内教育機関 市町	○	○	○	○	○	教育機関での食育学習会(年間実績) (R4) 212回	(R9) 220回
ウ 小中学校における梅システムに関する授業の導入推進	22	◎推進協議会、教育委員会 地域	○	○	○	○	○	梅システム関連授業実施校(年間実績) (R5) 23校	(R10) 23校
エ 梅システムの伝承活動の推進	23	◎推進協議会、教育委員会	○	○	○	○	○		
オ 体験学習等を通じた炭焼文化の継承	23	◎地域、市町	○	○	○	○	○		

(3) 高付加価値化・ブランド力向上



ア 情報発信による梅産業等の認知度向上	23	◎推進協議会 市町	○	○	○	○	○	観光客数(年間実績)(R5) 1,464,544人	(R10) 1,500,000人
イ 梅の生産・加工、備長炭製炭体験プログラムの展開	23	◎JA、梅干協同組合、森林 組合、観光協会	○	○	○	○	○	梅・炭体験者数(年間実績)(R5) 19,598人	(R10) 20,000人
ウ 梅システムの情報発信基地及び世界農業遺産紹介ツールの充実と配置	24	◎市町、観光協会	○	○	○	○	○	梅の情報発信施設入館者数(年間実績) (R4) 52,163人 炭の情報発信施設入館者数(年間実績) (R4) 8,515人	(R10) 60,000人 (R10) 10,000人

(4) 未利用資源の活用により里地・里山の荒廃を防止し文化・価値観を伝承								     				
ア 生産者と消費者の交流推進	24	◎地域、観光協会、森林組合、観梅協会、市町	○	○	○	○	○	観光客数(年間実績) (R5) 1,464,544人	(R10) 1,500,000人			
イ 共創、協働の推進共創、協働の推進	25	◎地域、推進協議会	○	○	○	○	○	支援企業数(累計) (R4) 3社	(R10) 3社			
ウ 未利用資源の有効利用	25	◎地域、推進協議会	○	○	○	○	○					

(5) 持続可能な社会に向けた貢献								      				
ア 被災地支援、備蓄用の梅干のPR	25	◎地域、JA、市町	○	○	○	○	○	備蓄用梅干導入数(累計) (R5) 14件(12区1市1大学)	(R10) 15件			
イ 海外からの企業視察や研修生の受入を行う。	25	◎地域、企業、JA、推進協議会、市町	○	○	○	○	○	海外視察研修生受入数(累計) (H28～R4) 133人	(H28～R9) 150人			
ウ 国内外のGIAHS関係者とのネットワーク構築	26	◎地域、推進協議会、市町	○	○	○	○	○					

5 ランドスケープの特徴

(1) 耕作放棄地対策と里山の維持



ア 耕作放棄の防止と増加抑制	27	◎JA、市町、県	☐	☐	☐	☐	☐	耕作放棄地(年間実績) (R4) 133ha	(R9) 100ha
イ 遊休農地の活用、解消に向けた取組の推進	27	◎地域、JA、市町	☐	☐	☐	☐	☐		
ウ 農家や製炭者、地域住民、地域外も含めた多様な主体による保全活動の推進	27	◎地域、市町	☐	☐	☐	☐	☐	共同事業に取り組む対象農用地面積(年間実績) (R3) 2,880ha	(R8) 2,880ha
エ 河川、道路等の人工構造物の環境調和推進	27	◎市町、県	☐	☐	☐	☐	☐		
オ 多様な主体による保全活動及び交流活動を推進	27	◎推進協議会、地域、県、市町、観光協会	☐	☐	☐	☐	☐		

(2) 景観の維持、継承



ア GIAHSストーリーを踏まえた見学スポットの活用	28	◎市町、観光協会	☐	☐	☐	☐	☐	観梅客数(年間実績) (R5) 30,025人	(R10) 40,000人
----------------------------	----	----------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-------------------------	---------------

注1) 実施者について、実施者が複数存在する場合には、責任者に◎を付けてください

注2) 「指標」は可能な限り定量的なものを記入してください

注3) セルは必要に応じて挿入、削除してください

注4) 「ページ」には保全計画本文の該当するページを記入して下さい

注5) 世界農業遺産への認定申請に係る承認のみを希望する地域は1～5の項目が必須となります。